



東日本大震災は、美しい東北に未曾有の被害をもたらしました。3月11日の大震災を経験した学生、また16年前に阪神淡路大震災を経験した学生を含む私たちユースは、震災後のボランティア活動を通して、日本国内の絆、世界との絆を強く感じました。私たちユースは、東北の復興と災害に強い社会に向けた重要な担い手です。私たちユースは、東北の力強い復興と再生への願いをこめて、また私たちの経験を世界と共有し生かしてゆくために、日本国内および世界の同じ世代の若者に向けて、ユース宣言としてメッセージを發します。

国連デー ユース宣言

きっかけは、悲惨な状況を目の当たりにしたことだった・・・

特別な動機や特別な能力があるからボランティアに参加したのではなく、被災の当事者になったことで何もせずにはいられませんでした。

① 私たちは、自然との共生について考えていきたい。

1000年に一度の災害を経験して、改めて人は自然の中でしか生きようがないことを感じました。超高層の防波堤などの技術をもってしても、津波という自然には逆らえませんでした。私たちは自然に立ち向かうのではなく、自然と共生する方法を考える必要があるのではないのでしょうか。この考えのもと、防災教育の必要性やそのあり方についても考えていきたいです。

② 私たちは、若者ならではの力を発揮できることを学んだ。復興に向けた営みを次の世代につなげていきたい。

私たちは、若者が被災地に入ってボランティア活動すること自体に大きな意義があることを改めて感じました。それは、若者が、高齢者には大変な力仕事ができる存在であるだけでなく、子どもにとって頼りがいのあるお兄さん・お姉さんであるということです。若者の活躍には復興への原動力が感じられるともいえます。また、今の若者のみならず、被災地および日本の将来を選択し、復興を担う次の世代が活躍できるよう、今の若者の活動を次の世代へとつなげていきたいです。

③ 私たちは、被支援者のニーズを考えながらボランティア活動を続けていきたい。

支援を求めている人のニーズに合っていないければ、何か行動を起こしても、それが必ずしも望ましい活動にはならないと感じました。単に支援者側のしたいことをするのではなく、被支援者側が求めることを探り、それに基づいて行動していくことの重要性を伝えていきたいです。

④ 私たちは、世界から注目されていることを感じた。東北(日本)が生まれ変わる姿を世界に発信し続けたい。

東日本大震災や福島原発事故を契機として、世界中から東北に、そして、日本に注目が集まり、様々な支援を受け、私たちは今まで以上に世界とのつながりを感じました。少しずつ東北が生まれ変わる姿を世界に伝えることで、日本、そして世界とこの経験を共有し生かしていきたいです。

2011年10月24日 神戸大学・佛教大学・東北大学学生代表